

イチジクの軽量ポット栽培における馬糞チップ堆肥培地の代替資材			
【要約】 イチジクのポット栽培における馬糞チップ堆肥：もみ殻燻炭（体積比1：1）培地の代替資材として、もみ殻：もみ殻燻炭（体積比1：1）培地を使用することで、同等の生育、果実品質、収量を得ることができる。			
農業技術振興センター花・果樹研究部・果樹係		【実施期間】	令和元年度～令和2年度
【部会】 農産	【分野】 戦略的な生産振興	【予算区分】 県単	【成果分類】 普及

【背景・ねらい】

イチジクは市場価格が安定しており栽培が増加している。そのような中、当県では育苗ハウスを活用でき、連作障害を回避できる栽培方法として軽量培地を用いたポット栽培技術を開発した。しかし、培地となっている馬糞チップ堆肥が令和元年度より供給停止されるため、馬糞チップ堆肥に替わる新たな軽量ポット培地が求められている。

【成果の内容・特徴】

- ①イチジク2～3年生樹において、もみ殻：もみ殻燻炭培地（体積比1：1）[以下「もみ殻燻炭培地」]は、エコロング肥料を施用することで馬糞チップ堆肥：もみ殻燻炭培地（体積比1：1）[以下、「馬糞チップ燻炭培地」]と同等の生育を得ることができる（図1、2年生樹のデータ略）。
- ②2～3年生樹において、もみ殻燻炭培地では、馬糞チップ燻炭培地と同等の果実品質（果重、果皮色、糖度）と収量を得ることができる（表1）。
- ③もみ殻燻炭培地における2年生樹のせん定後のポット重量は、馬糞チップ燻炭培地よりやや重くなる（表2）。

【成果の活用面・留意点】

- ①1年目に挿し木し、同年6月に定植した2～3年生樹の成績である。
- ②1年生樹は、定植時にIB化成20gを施用し、7月にエコロング100日タイプを200g/ポット、2年生樹、3年生樹は、4月上旬にIB化成30g/ポットを施用し、5月上旬にエコロング140日タイプを150g/ポットを施用している。
- ③慣行培地の栽培マニュアルでは、定植してから4年目でポットを更新することとしている。もみ殻：もみ殻燻炭培地を用いたポット栽培の耐用年数は不明な点がある。

[具体的データ]

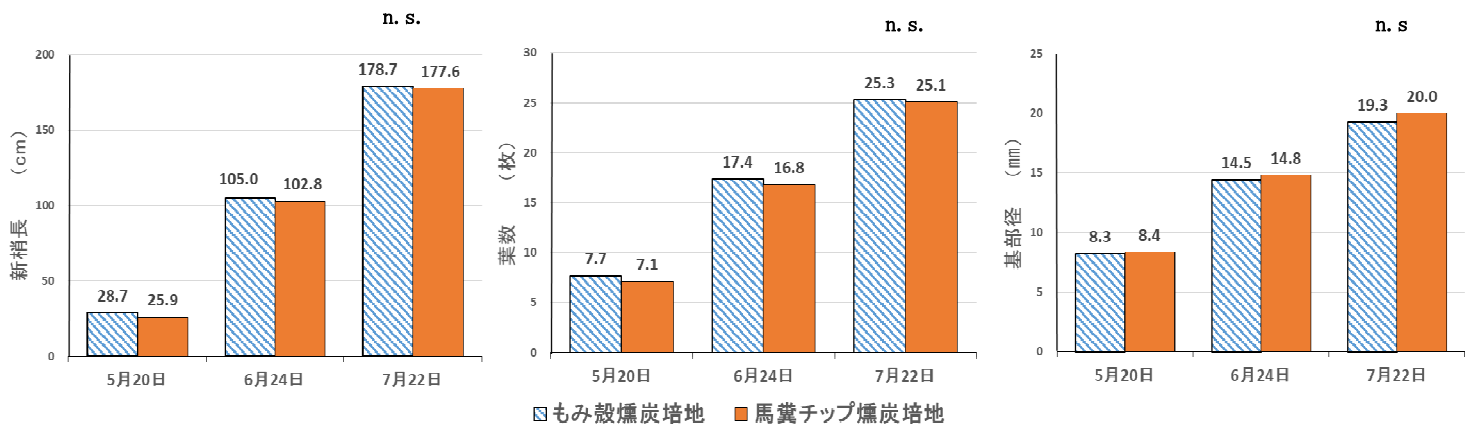


図1 培地の違いが新梢長と葉数、基部径に及ぼす影響 (2020)

- 1) 2020年の3年生樹を用いたデータである。
- 2) n.s.はt検定において5%水準で有意差なし。

表1 果実品質及び収量(2020)

		果重 (g)	果皮色 ^z	糖度 (Brix%)	収量 (kg/樹)
2年生樹	もみ殻燻炭培地	67.5	3.8	13.5	2.6
	馬糞チップ燻炭培地	67.4 n.s. ^y	3.8 n.s.	14.2 *	2.9
3年生樹	もみ殻燻炭培地	73.2	3.9	14.4	2.9
	馬糞チップ燻炭培地	62.5 *	3.8 n.s.	14.2 n.s.	2.6

z:果皮色は、着色割合を5段階(0:無着色～果面の着色20%未満、1:果面の着色40%未満、2:果面の着色60%未満、3:果面の着色80%未満、4:果面の着色80%以上)で評価した。

y:t検定において、*は5%水準で有意差あり.n.s.は有意差なし。

表2 2年生樹のせん定後のポット重量(2020)

ポット重量 (kg)	
もみ殻燻炭培地	11.9±0.4
馬糞チップ燻炭培地	10.4±0.6 *

- 1) 数値は平均値±標準偏差。
- 2) *はt検定において5%水準で有意差あり。

[その他]

・研究課題名

大課題名：戦略的な農畜水産物の生産振興に関する研究

中課題名：野菜等園芸作物や近江の茶の生産振興

小課題名：ポットイチジク栽培における軽量培地の代替資材の検討

・研究担当者名：山中英 (R元～R2)、杉浦里歩 (R元～R2)

・その他特記事項：技術的要請課題：大津南部、東近江農業農村振興事務所 (H30)

令和2年度園芸振興大会で発表